（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	Ｂｅトゥインクル			
○保護者評価実施期間	2025年　11月　15日	～	2025年　12月　15日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	7
○従業者評価実施期間	2025年　12月　24日	～	2026年　1月　13日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	14	（回答者数）	14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　1月　19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご家族様アンケートで、いつもあたたかい接し方のおかげで行くのが楽しみなようですとのお声をいただきました。学校とは別に楽しんでいただけるようお一人おひとりと触れ合えていると思われます。	ご利用者様お一人おひとりに合った触れ合い・関わり方ができるようにしています。その関わりの中で、小さな変化も見逃さないよう観察も行うようにしております。	どの職員でもご家族様に詳細なご利用状況をお伝えできるスキルを身に着けられるよう、事業所全体として取り組んでいきます。それが結果として今以上の信頼につながるよう取り組んでまいります。
2	事業所の自己評価では午前・午後の活動が同じ内容にならないようにしているとの意見がありました。楽しんでいただくこと・四季を感じていただくことを意識して行っていると思われます。	その日が何の日なのかを調べ、その日に合った・ご利用者様も一緒に楽しんでいただける活動の時間になるよう工夫をしています。また、季節のイベントも行い写真にも残し、ご家族様にも楽しんで頂けている姿をご報告するようにしています。	その日活動の司会を行う職員は、何をするかきちんと調べて準備を行っています。今後はチームとして全体で計画・実施までできるよう取り組んでまいります。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家族様アンケートにて、職員が変わって誰かが分からないので名札を付けてほしいとのお声をいただきました。名札を付けなくても覚えて頂ける工夫が必要と思われます。	制服を着用していないので名札がない状態です。変更があった際は、速やかに写真付きのお便りを発行する等で、全ご家族様にお知らするような対応を心がけております。	今後、事業所の入り口に全職員の写真と名前を貼り出す等の工夫も検討していきたいと思います。
2	事業所の自己評価で、ご利用者様が過ごすスペースが日によって狭い時もあるとの意見が上がっていました。車いすやバギー上だけで過ごすのではなく、マットの上でリラックスした状態で職員と触れ合う時間を設けることも大切な時間だと思われます。	全員がマットの上で過ごす時間を設けられるよう、交代で降りていただくようにしています。また、2025年5月にトゥインクと統合したことで、マットが開いている時間に過ごして頂く場所を変える等工夫をしております。	2事業所が統合しても２つの空間で支援を行っています。ゆくゆくは１つの空間で支援が行え、全ご利用者様がゆっくりと過ごせるスペースを確保できるようにしていきたいと思います。
3	事業所の自己評価で、支援開始前後の打ち合わせの時間がないとの意見が上がっていました。その為、情報の共有がとりにくい状態になりやすいです。その日の情報を職員全体で把握する工夫が必要と思われます。	送迎に出る職員がいる・出退勤の時間が皆違う・ご利用者様が到着次第、様々な支援を開始している等で、全職員が集まって打ち合わせを行うことが難しい状況です。事前にわかっている情報は連絡ノートに記載して周知するようにしております。	リーダーがその日の流れを全て把握し都度指示を出しますが、全職員に周知されるような仕組みを、全職員で再度考えて実施できるようにしていきたいと思います。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	Ｂｅトゥインクル

公表日　2026年1月23日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	特性等に配慮しながら危険のないように工夫している。	・曜日によって過ごす場所が確保しにくい時もあるので２フロアを上手く使って過ごしていただくよう工夫が必要。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・パーテンションや個室を使用し、気持ちの切り替えができるように配慮している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		年度ごとに目標設定を行い、職員へ周知し取り組んでいる。	業務改善や目標設定をする際の職員の参画が限定的になることがある。業務の流れや勤務体制で全体で厳しいことも多いが。全体で振り合えりを行う時間を設ける必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ご家族様の声に対し、早いうちにお話しをし、職員に周知するようにしている。	アンケートからだけではなく、直接の声をお聞きする機会を設ける必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		個人で研修を受講するとも勧めているが、外部からの研修にも可能な限り参加できるようにしている。	オンラインでの研修が多くなっているので、より多くの職員が研修を受けられる環境にする必要がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		重症度の高いご利用者が多く、アセスメントが難しい部分が多い。アセスメント様式の改善が必要。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		より具体的な内容になるように、常に「本人」「ご家族」「相談員」と検討・相談を行いながら作成している。また、児童個人の状態に合わせた計画になり、その児童の生活の質が向上できるような内容になるよう注意している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		活動のプログラムは担当職員が立案しているが、チームとして全体で検討する環境にすることで多くの案がでると思われる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		○		学校終了後の時間で集団活動を行うことが難しく、個別活動中心となっている。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○		学校終了後の時間で集団活動を行うことが難しく、書くリーダ同士で打ち合わせを行っている。今後は事前に打ち合わせを行う時間を設けられるよう検討が必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。		○		上記と同様で、振り返りの時間を作ることが難しいので職員会議にて行うことが多い。今後は事前の打ち合わせ時に振り返りも行えるよう検討が必要。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。		○		児童発達支援センターと係る機会が少なく、病院や相談員との連携が多い。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		感染症対策により控えている状況。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		基幹相談支援センターを通じることが多い。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		保護者会への参加はあるが回数が多くない。事業所として参観日や懇談会の企画を行うがきょうだいとの交流行っていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		LINEにて情報共有を行ったり、おたよりにて事業所の予数をお伝えしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		法人としては取り組んでいるが、事業所としては行っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			BCPを策定し訓練は行っているが、繰り返し行うことが必要と思われる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		アレルギーのあるご利用者がほとんどいない。ご家族を介して指示を得ている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			ヒヤリハットを出す件数が少ない。事故が起きないためにも出す意識を持つよう指導していく必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			